

北海道苫小牧工業高等学校 ループリック・マトリクス
(原動機：第3章、第3節往復動機関の作動原理と熱効率)

	A	B	C
知識・技術	(Bの基準に加えて) 理解した内容を、社会における様々な場面で活用できる知識として身に付けている。	往復動機関の作動原理を理解し、行程容積と圧縮比を適切に求めることができる。 4行程と2行程の往復動機関の作動原理を理解している。 定容サイクル、定圧サイクル、複合サイクルを理解し、熱効率を適切に求めることができる。	(Bの基準に達しない) 【手立て】 改めて教科書やワークシートを確認したり、必要に応じてICT機器を活用し、理解を深める。
思考・判断・表現	(Bの基準に加えて) 他者に対して、効果的な手段で、自分の考えをわかりやすく適切に伝えることができる。	行程容積や圧縮比が変化すると、どのような影響があるのかを考え、説明することができる。 4行程と2行程のメリット・デメリットを考慮し、適切な活用の場面を判断することができる。 熱効率を向上させるためには、どのような観点に注目する必要があるかを表現することができる。	(Bの基準に達しない) 【手立て】 改めて教科書やワークシートを確認したり、必要に応じてICT機器を活用し、理解を深める。
主体的に学習に取り組む態度	(Bの基準に加えて) ICT機器を活用し、教科書やワークシート以外の知識等を調べ、理解を深めることができる。	往復動機関に興味・関心を持ち、どのような場面でこの知識や技術を活用することができるかを考えることができる。 この知識や技術は、実社会のどこで活用されているのかを考えることができる。 環境に配慮した往復動機関について調査し、理解を深めることができる。	(Bの基準に達しない) 【手立て】 他者の意見や考え方を参考に、自身が調べた内容と比較するなどして、自分自身の考えを深める。

基準表-1312原動機-往復動機関-2022年8月研修会-苫小牧工-板坂主幹教諭